

サクランボ手伝い 留学生ら招き交流

山形県河北町

【山形】河北町のサクランボ農家に収穫の手伝いに訪れている留学生ら5人を招き、受け入れに協力した関係者が26日、同町で交流会を開いた。

留学生は、山形大学農学部大学院で学ぶベトナム人3人とカメルーン人1人。4人は30日まで、2戸のサクランボ農家で



留学生らを囲み、笑顔の関係者（山形県河北町で）

収穫や箱詰めなどの作業を応援。他に山形大学農学部留学生1人が7月1日まで手伝う。

歓迎と慰労を兼ねた交流会には留学生らの他、受け入れに関わった農事組合法人ファーム吉田や町、住民、山形大学農学部角田毅教授、JAさがえ西村山、JAグループ山形地域・担い手サポートセンターの職員ら約20人が集まった。

ファーム吉田の佐藤勝良代表らが、受け入れに至った経緯に触れながら歓迎の言葉を述べた。留学生は「サクランボを園地で見ただけでも収穫したのも初めて。役に立ててうれしい」などと話した。作業応援を受け入れた鈴木勲さんは「本当に助かっている。来年もぜひ、お願いしたい」と話した。